

令和元年6月14日現在

機関番号：62601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03776

研究課題名(和文)19世紀アメリカ初等中等学校のテスト情報の日本的な受容と展開に関する比較的研究

研究課題名(英文)Comparative study on the characteristics of Japanese acceptance of 19C American testings

研究代表者

橋本 昭彦 (Hashimoto, Akihiko)

国立教育政策研究所・教育政策・評価研究部・総括研究官

研究者番号：80189480

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,950,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、米国の先行研究の結果を参考としつつ独自に19世紀中盤以降の米国初等中等学校における試験の規則・実施要項・問題・結果報告書等の一次資料を入手し、また外国教育情報の影響を受けたと思われる日本側資料も収集した。さらに、近世の武家教育から明治前期の試験制度関係の諸資料を収集し、上記情報との突き合わせを行った。

その結果、明治初期の我が国においては、西洋からは国民教育制度や進級・入学試験などの制度的な整備の在り方を模倣的に受容していたものの、その後の試験の実施形態や執行過程においては近世における武士教育における試験の経験や慣行が色濃く看取されることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世の試験の経験が近代日本が試験制度を作る際の素地をなしたという可能性は、ロナルド・ドーアや天野郁夫らが示唆したが、近世・近代の連続・非連続の実証は本研究以前にはなされてこなかった。

本研究の学術的意義は、明治前期の日本の試験制度が、西洋に法制度の範を取りつつも、中身は江戸時代の学問吟味等の褒賞制度にちなる試験の手順や慣行に従っていたことを明らかにしたことである。

日本における試験が、真面目に学ぶ態度や意欲を検査して望ましい学校像・学習者像を育成することに重点を置き、学習者の能力の正確な測定や有資格者の公正な判定の機能が弱められることがなかったか、社会的に回顧する手がかりを提供することができた。

研究成果の概要(英文)：I originally collected primary materials on American testings in 19c public schools, and materials of examinations in 19c Japan, including those under the pre-modern Samurai regime.

The comparative analysis of them revealed that even modern Japanese government had borrowed the legal formats from America and other Western countries for establishing schools and examination rules, the Japanese tests appeared to be different from the American ones. Japanese rules and materials of testing resemble American ones, but the context differed from each other. I reported some instances of school semi-annual tests that were done for the sake of checking students' compliance toward study rather than for assessing their competency. Another instance was an exercise book for teacher candidates in the States that was translated or transformed into a material book for examiners that deals with lower elementary school students.

We may next think about the meaning of Japanese sticking to traditional tests.

研究分野：教育史

キーワード：試験 テスト アメリカ 近世 明治 教育情報 比較教育史 評価

1. 研究開始当初の背景

社会一般、中教審、及び学校でも議論される「受験学力」や「受験に向けた教育」(teaching to the test)の形成過程や歴史的特質は、学術的に未解明である。日本の教育では試験制度は明治以降次第に拡大し、昭和初期には「試験の時代」「受験社会」が到来したという社会史的叙述（天野 1983、斎藤 1995 等）はあるが、教育の中に主要な位置を占めた試験制度の特質の学術的解明は手つかずの状況である。

近世には受験とはほぼ無縁の学習文化を有した日本がなぜ、いかに「受験社会」に向かったのか、それらを解明する基礎を本研究で得たい、と考えた。

2. 研究の目的

日本が、受験社会の形成途上の近代教育創設期に、近世の伝統を引く試験に加えて、初等中等教育のモデル国であったアメリカからの試験の情報をどのように選択・受容し、活用したか。その過程を実証的にとらえて、比較教育史的な視点と手法による分析を行い、近代日本の試験の本質や特徴など、初期受験社会の基本構造を解明することが目的である。さらに、将来、昭和後期以降の「大衆受験社会」の特質を解明する道筋を付けたい。

3. 研究の方法

- 1) 19 世紀アメリカ初等中等学校のテスト関連史料の収集と分析
- 2) 明治期日本の各府県・小中学校の試験の関連資料の収集と分析
- 3) 明治末までに移入されたアメリカ教育書・論文等のテスト情報の分析
- 4) 3) のアメリカのテスト情報と、2) の日本の各府県・学校の試験の関連性の分析
- 5) 19 世紀アメリカのテスト情報の日本的な受容の特質を国内外の学会や研究会で報告し、意見交換を経て、これを分析する。

4. 研究成果

本研究では、米国の先行研究の結果を参考としつつ独自に 19 世紀中盤以降の米国初等中等学校における試験の規則・実施要項・問題・結果報告書等の一次資料を入手し、また外国教育情報の影響を受けたと思われる日本側資料も収集した。さらに、近世の武家教育から明治前期の試験制度関係の諸資料を収集し、上記情報との突き合わせを行った。

その結果、明治初期の我が国においては、西洋からは国民教育制度や進級・入学試験などの制度的な整備の在り方を模倣的に受容していたものの、その後の試験の実施形態や執行過程においては近世における武士教育における試験の経験や慣行が色濃く看取されることが明らかになった。

試験は、米国では、ホーレス・マン (Horace Mann) らによる 19 世紀の公立学校改革によって筆答化され、ヨーロッパから受容した統計学の力を借りて、教育成果の個人単位・学校単位・学区単位での分析や診断に使われ、さらには様々な職業資格の判定にも用いられることとなった。他方、日本では、学習・教育成果の評価や職業資格の判定に使う以上に、勉学の努力を証明する者への褒美の授与に使うことが盛んであった。近代学校とともに試験制度が全ての児童に及ぶ受験社会へと突入するが、試験の実施形態が近世の藩校等の武家教育の試験に似ている部分が多く、試験の文脈やそれらを取り巻く環境は近世封建社会の影響を随所に残していた。

こうしたことが子ども、家庭、教員などにどのように影響していて、どのように大衆受験社会に向かう流れを作ったのか。今後解明されるべき学術的疑問の解決のために、本研究で明らかになった知見を役立てたい。

<主な参考文献>

- Duncan, Alexander (1863/1865) *The Examiner: Or, Teacher's Aid*, Sargent, Wilson & Hinkle.
- Hashimoto, A. (2015), "Comparison of the Big Tests' Origins in Japan and the United States: The Characteristics of the "Elementary School Examination" of the Early Meiji Era", *Comparative Sociology*, Vol.14, Issue 1, Brill, 53-78.
- Marilyn Cochran-Smith et al. (1990), *Handbook of Research on Teacher Education*.
- Reese, William (2013), *Testing Wars in the Public Schools*, Harvard University Press.
- Stone, Isaac (1864/1869/1873/1877), *The Elementary and Complete Examiner; or, Candidate's Assistant: prepared to aid teachers in securing certificates from boards of examiners, and pupils in preparing themselves for promotion, teachers in selecting review questions in normal schools, institutes, and in all drill and class exercises*. New York/Chicago A.S. Barnes & Company.
- 麻生千明 (2017) 「須永平太郎の卒業（進級）証書に関する考察 ——明治初年の足利 小学校の状況——」『足利工業大学研究集録』第52号
- 天野 皎 (1875) 『下等小学諸科試験法』大阪 河内屋 浅井吉兵衛 刊
- 天野郁夫 (1983) 『試験の社会史』、東京大学出版会

金子尚政 (1874) 『小学試験法』文徳堂
齊藤利彦 (1995) 『試験と競争の学校史』平凡社
鈴木貴史 (2016) 「明治初期の教授法における文字および書字の機能：文字言語と音声言語の関係に注目して」『筑波大学教育学系論集』第40巻第2号
R.P.ドーア著、松居弘道訳 (1970) 『江戸時代の教育』岩波書店
橋本美保 (1994) 「明治初期西洋教育書による教育学研究-Teacher's Libraryの移入と活用を中心にして-」『教育学研究』第61巻第4号
同上 (1998) 『明治初期におけるアメリカ教育情報受容の研究』風間書房
堀松武一 (1971) 「明治前期における小学試験法の実態」『教育学研究』第38巻第2号

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 2 件)

- 1) 遠座知恵 「東京女子高等師範学校附属小学校における作業教育実践の展開—評価概念の導入によるカリキュラム改革の深化」『近代教育フォーラム』27、2018年、15-26頁。【査読有】
- 2) 橋本美保・江口潔・遠座知恵・宮野尚 「思想史と実践史を架橋する—新教育研究への提案」『近代教育フォーラム』27、2018年、111-117頁。【査読無】

[学会発表] (計 5 件)

- 1) Hashimoto, Akihiko. “An American exercise book for exam takers utilized in Japan as a handbook for examination administrators: The translation of Isaac Stone’s The Complete Examiner.” ISCHE (International Standing Conference for the History of Education; 国際教育史学会) Annual Conference 2018, Humboldt University Berlin. Aug. 2018.
- 2) Hashimoto, Miho and Miyano, Hisashi. “Circulation of knowledge on Progressive Education in Modern Japan.” ISCHE (International Standing Conference for the History of Education; 国際教育史学会) Annual Conference 2018, Humboldt University Berlin. Aug. 2018.
- 3) Enza, Chie. “Reception of Pedagogical Knowledge in Practical Contexts: Case Study on Progressive Education School Reform in Modern Japan.” ISCHE (International Standing Conference for the History of Education; 国際教育史学会) Annual Conference 2018, Humboldt University Berlin. Aug. 2018.
- 4) 橋本昭彦 「アメリカ小学試験情報の日本的受容の事例的考察—天野皎『下等小学諸科試験法』の発刊事情—」、日本教育史学会、於・立教大学、2017年11月
- 5) Hashimoto, Akihiko. “Why Samurai had to endure hardships of the pre-modern examination.” ISCHE (International Standing Conference for the History of Education; 国際教育史学会) Annual Conference 2016, Loyola University Chicago. Aug. 2016.

[図書] (計 2 件)

- 1) 橋本昭彦・名古屋由佳 『地方教育通史一覽』国立教育政策研究所、2019年、74頁
- 2) Onaka, Fumiya. ed. *Comparative Sociology of Examination and Educational Institutes*. Routledge, 2019. (分担執筆: Hashimoto, Akihiko. Chapter 5 “Comparison of the big tests’ origins in Japan and the United States.” pp.98-121. 2015年の同名雑誌論文の全面改稿版。)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者

橋本 美保 (HASHIMOTO Miho)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：60222212

遠座 知恵 (Enza Chie)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：20580864

(2) 研究協力者

なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。